

傾斜地 / 床（生活） / 違い棚

大原の穏やかな里の空気漂う傾斜地の一面に立地する週末住居。景色への広がりや傾斜地の地勢的条件、この地域の場所性との繋がりに対して建築的回答を試みた。敷地のコンターラインに沿って床、屋根を散文的に配置し、その床の広がり、屋根の位置、木々の繁り方や光の入り方などを考慮しながら居間や寝室、浴室などの諸室が配置される。諸室はそれぞれテラスへと空間が延びそして、景色へと連続する。諸室とテラスはそれぞれ生活空間を補填するように関係し、月見や音楽の演奏など、生活を拡充する。生活の場となる床は違い棚のようにリズムカルな構成に生活の様々なシーンを載せながら、景色の中に定位する。

傾斜地と床と構造
建築に入力される水平力は床盤と屋根を通して斜面に伝達され、斜面が負担する。これにより建物内の耐力壁は低減され柱は鉛直力のみを負担することとなる。通常の木造建築より若干断面の大きな柱となるが、開放的な構成の立面が実現している。

